

企画展 開催中

10月25日(日)まで

# スズキコージの絵本原画と

## 浜松の手づくり絵本展



浜松市出身の画家・絵本作家、スズキコージ氏の描いた数多くの作品の中から、『まざあ・ぐうす』『クリスマス プレゼントン』等の原画と絵本を中心に展示しました。

彼の創造する、豊かな想像力に溢れた独特の世界は、子どもたちばかりでなく、大人のファンの心をも惹きつけて止みません。本展をとおして、多くの皆様にスズキコージ氏の作品の素晴らしさを味わっていただけたら幸いです。

同時に、浜松絵本クラブ「チャイルドママ」の皆様の手づくり絵本、文芸館の「絵本づくり講座」の中から生まれた「世界に一つだけの絵本」も紹介しています。

### 浜松文芸十人の先駆者紹介

浜松文芸館では、浜松市及び遠州地方にゆかりのある優れた文芸作家たちの貴重な資料を収集し、大切に保存しています。『浜松文芸十人の先駆者』として、浜松文芸館でまとめた資料の中から、今回は「作詞家・清水みのる」について紹介します。



### 《紫綬褒章の望郷詩人・清水みのる》

1903年、浜名郡伊佐見村(現浜松市西区伊左地町)に生まれる。本名實。

浜松中学校(現浜松北高等学校)に入学し、柔道や水泳で活躍したが、文学にも関心をもつようになった。立教大学文学部英文学科入学。佐藤惣之助に私淑し詩や脚本を書く。

卒業後、ポリドール蓄音機会社に入社。歌手田端義夫のヒット曲『島の舟歌』『別れ船』などを作詞、歌謡曲作詞家としての地歩を固める。NHKラジオ歌謡『森の水車』や『ふるさとのオモチャの唄』など、作詞分野も広い。その詩には、ふるさと伊左地への思いが溢れる。

日本作詞家協会功労賞、紫綬褒章受章。



<写真:文芸館講座室(クリエート浜松4階)前の「清水みのるコーナー」>

## 文学紀行

### 井上靖と浜松 14

#### 「川の話」に描かれた二俣～佐久間の沿岸風景

幼少時、伊豆の狩野川のほとりで育った井上靖は、川はみな海へ出ようとする一途さを持ち、それぞれの川が独自の表情を持っているところに惹かれるという。好きな川を一つ上げると言われれば、

天竜川でしょうかな。溪谷も、木曾の溪谷より天竜の溪谷の方が私は好きです。木曾川も天竜川も同じように溪谷の底を流れる川ですが、天竜川の方が、どこかに鋭いものを持っています。

と記す。昭和30年3月、土木会社R組の課長をしていた大学時代の友人から「佐久間ダムへ出かけるが同行しないか」と誘われた。ダム工事よりも二俣から佐久間までの天竜川を溯って行く道筋に心惹かれ、即座に応じた。約40キロのこの川筋だけは未見だった。

R組の自動車の出迎えを受けて、「武蔵野に似通ったところのある」原野を突っ切り、三方が原台地の東端にある二俣の町の入口で大きく湾曲している天竜川にぶつかった。橋を渡って、戦国時代に名を知られた城を持つ「柿の若芽の美しい静かな町」へ入った。「道路がやたらに折れ曲がっていて、小さい家々がのどかな町並みを形成して」いたという。

町を抜けてしばらく走った光明村船明で、天竜川の川岸に出た。ここから佐久間まではずっと川沿いの砂利道である。

川の向こう岸には淡竹の藪が多く、こちら側は麥の青と菜の花の黄がだんだら模様を造っている田圃が続いています。そうした場所を暫く走っているうちにいつか次第に周囲は狭まり道路は丘陵の裾ばかりを縫い始めました。そして道路の川に面した側の方に桜樹が植わり、どの桜樹も丁度今日か明日が満開という花を着けています。(略) 行けども行けども桜樹は天竜川に沿って等間隔に植えられています。私達は車に揺られながら、長い間桜の下枝の花の間から天竜川の蒼い川の面を見続けました。そうした思いがけない観桜ドライブが一時間程続いて、自動車は横山橋という橋を渡って、ここで初めて天竜川の左岸に出ました。この辺から桜樹は漸く疎らになり、杉林が続きます。対岸の山の斜面にはところどころに点々と土蔵造りの家が見えます。また道端の農家はどこも申し合わせたように背戸に夏蜜柑の木を持っているのが見受けられます。

ここにはダムの出来る前の船明辺の様子がよく描かれている。その後、桜樹はすべて切り払われ高所に立派な道路ができ、満々と碧い水をたたえたダム湖が現在、静かに流れている。周囲の様相は当時とは一変してしまった。

クルマが龍山村に入ると、秋葉第一ダムの工事現場が目に見え込んできた。川も積も無残に破壊されつつあった。それから30分程して佐久間に着いた。ここでの第一印象は、「嘗て一度来たことのある佐久間村ではなく、全く異なった異様な場所へ連れてこられた」感じだったという。この作品には、約60年前の二俣から佐久間に至る天竜川沿岸の道や村の様子が活写されている。この後まもなく、佐久間・秋葉・船明のダムが次々と完成した。それに伴い立派な舗装道路が出来た。しかし、かつての村は水没し、働いていた人たちも去り一挙に過疎化が進んでしまった。緑濃い豊かな自然だけが僅かに当時を偲ばせている。

浜松文芸館講演会 講師：和久田雅之